

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

ハスモンヨトウの発生状況と防除対策(技術情報第11号)について(送付)

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

ハスモンヨトウ幼虫のほ場での発生が多い状況です。今後、幼虫の発育が進むと被害が拡大するため、ほ場内を見回り早期発見に努め、捕殺や薬剤防除等による防除対策を行いましょう。

1 現在の発生状況

- (1) 県内のイチゴ栽培ほ場で実施した10月の巡回調査では、ハスモンヨトウの寄生株率12.3%(平年3.1%)、寄生頭数1.5頭/10株(平年0.4頭/10株)で平年比多の発生であった。(図1、2)。なお、寄生していた幼虫の生育ステージは主に若齢であった。
- (2) 合志市・八代市・阿蘇市に設置したフェロモントラップによるハスモンヨトウの10月第1半旬~第2半旬の誘殺数は平年並であるが、10月上旬に3か所ともに急増が認められた(図3、4、5)。

2 今後の発生予想

平地では平年11月中旬頃までフェロモントラップによる誘殺数が多い傾向にあるため、今後も発生量が多い水準で推移することが予想される。また、すでにほ場内で発生している幼虫の発育が進み、被害が拡大することが懸念される。

3 防除対策等

- (1) ほ場を見回り早期発見に努め、見つけ次第捕殺する。特に、卵塊や分散前のふ化幼虫を見つけて除去できると効果的である。
- (2) 薬剤防除は幼虫が若~中齢のうちに行い、散布ムラが無いように丁寧に散布する。
- (3) イチゴ、トマトなどのビニール被覆前の施設栽培では、ハスモンヨトウ成虫が施設内に侵入しやすいため、ビニール被覆するまでは特に防除対策を徹底する。
- (4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

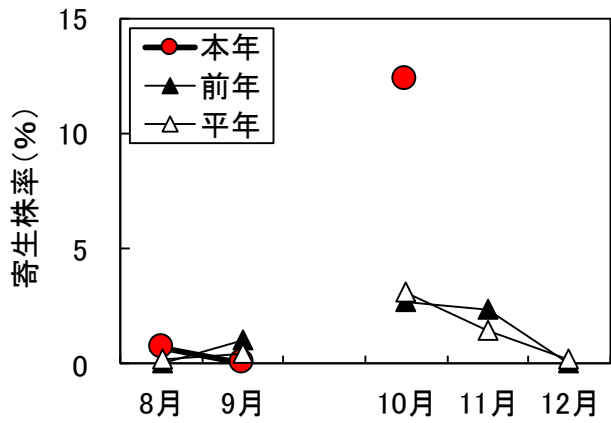


図1 ハスモンヨトウの寄生株率の推移(イチゴ)
(8-9月:育苗ほ 10-12月:本ぼ)

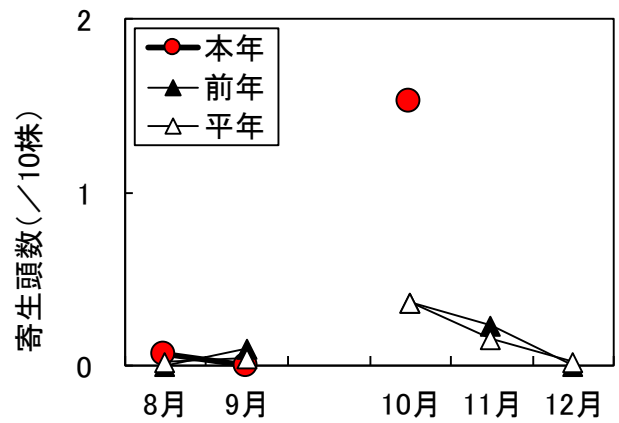


図2 ハスモンヨトウの寄生頭数の推移(イチゴ)
(8-9月:育苗ほ 10-12月:本ぼ)

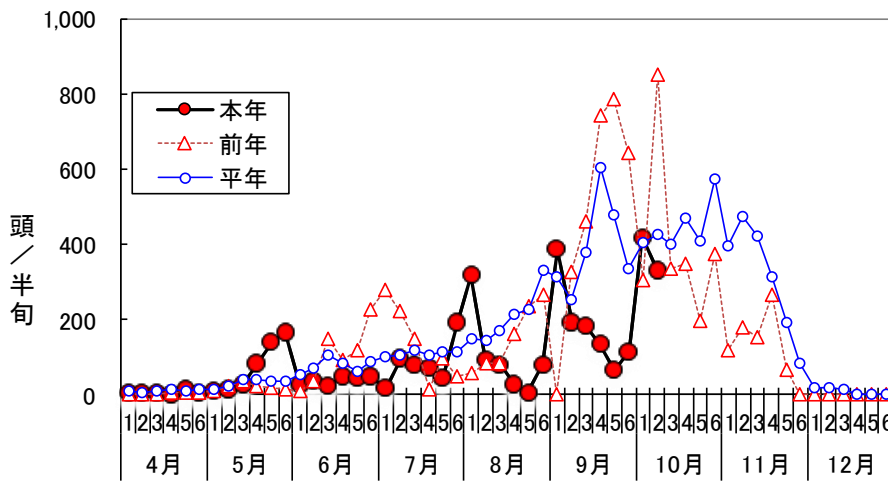


図3 ハスモンヨトウ(合志市栄・フェロモントラップ)

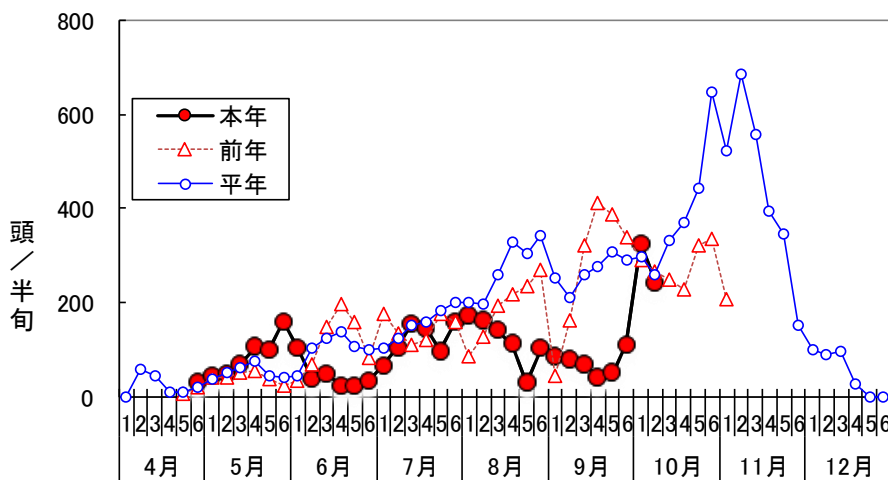


図4 ハスモンヨトウ(八代市鏡・フェロモントラップ)

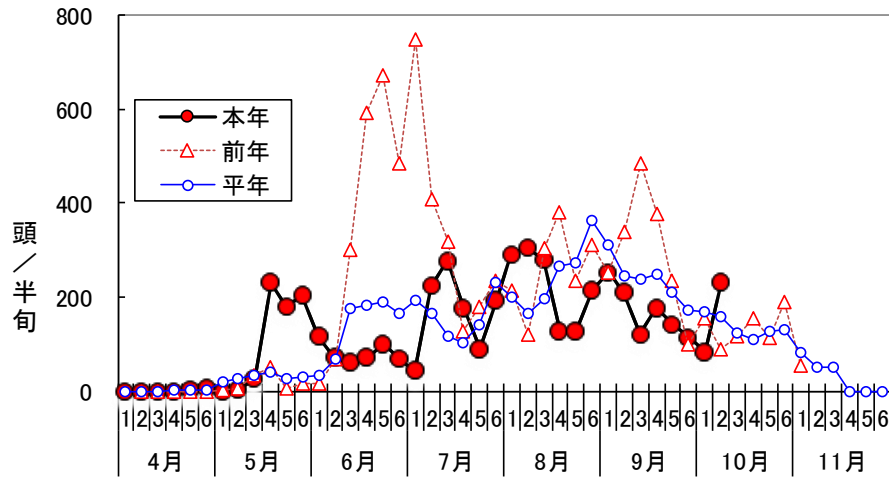


図5 ハスモンヨトウ(阿蘇市一の宮・フェロモントラップ)

熊本県病害虫防除所

(熊本県農業研究センター 生産環境研究所

予察指導室) 担当：中村、中井

TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493